

地域社会における地域循環バスの実態と展開の可能性 -千代田区地域福祉交通「風ぐるま」を事例として-

地域循環バス 地域福祉交通 風ぐるま
コミュニティバス 千代田区

正会員 ○ 上山 肇* 正会員 中村 幸子**
正会員 高 歓** 正会員 嶋村 豊一**
正会員 三木日出男** 正会員 石原 果奈**

1. はじめに

地域住民の意移動手段を確保するために地方自治体が運用しているものとして“コミュニティバス”がある。一般的に、交通事業者が赤字を理由に路線から撤退した後、高齢者や障がい者、学生などの交通弱者の交通手段が失われぬように費用を市町村等が負担してバスを委託して運行することが多い。

そもそも“コミュニティバス”には明確な定義はないが、市街地において公共交通サービスを提供する以外にも、市街地内の主要な施設や観光の拠点などを循環するものなどいろいろなかたちが存在する。その先駆けとなったものとして、東京都多摩地域の1980年代に運行を開始した「武蔵村山市内循環バス」や「日野市ミニバス」、1990年代の「武蔵野市ムーバス」がある。その後、様々な使い方を工夫しながら日本全国各地に広がっている^{注1)}。

本稿は、千代田区における「平成31年度千代田学事業^{注2)}」に本研究テーマを取り上げるにあたり、地域循環バスの中で地域福祉交通として運行されている千代田区の「風ぐるま」に関する利用実態を明らかにしながら、今後の活用方法と展開の可能性について探ることを目的としている。

2. 「風ぐるま」の概要

このバス事業は、千代田区在住の高齢者や障がい者が福祉施設を利用するための交通手段を確保することを目的としたもので、1997年4月1日に地域福祉乗合タクシー「風ぐるま」として運行が開始され、地域福祉交通としては2016年1月4日に運行が開始されている(写真1)。

現在、千代田区役所を起点に7台(全席優先席で15席/1台)で4コースが設定されている(写真2)。運営は日立自動車交通株式会社が行っており、これに対し千代田区は補助金(予算:23,873千円)を支給している。

利用料金は一般1回小学生以上100円で、千代田区在住60歳以上、身障者、妊婦及び未就学児童の保護者、ボランティアセンター登録者が無料となっている。

3. 研究方法

本稿では2018年度の大学院授業「地域社会論」においてグループワークのテーマとして取り上げ、グループワークをしながら「風ぐるま」の実態と今後の可能性について検討した。内容については以下のとおりである。

(1)千代田区福祉総務課へのヒアリング調査

授業で取り上げるに際し、区役所の担当部署である福祉

総務課に「風ぐるま」の運用実態について聞き取り調査を行った。また、授業におけるグループワークにおいてもグループ毎にヒアリング調査を行っている。

(2)大学院授業「地域社会論」でのグループワーク

2018年度に行われた地域社会論の授業の中で本テーマを取り上げ、グループワーク(3グループ)を行いながら検討した。グループによっては千代田区役所や他自治体へのヒアリングやフィールドワーク等を行っている。

4. 調査結果

グループワークにおいて、区役所へのヒアリングを行い様々な情報を得た。授業では3つのグループに分かれフィールドワークを行いながらまとめた。その結果、次のことがわかった。

4.1 区役所へのヒアリング調査からわかったこと

授業を行うにあたり千代田区の担当者にも聞き取りをしたところ(2018/9/26)、「風ぐるま」の利用者からは、①運行本数を増やしてもらいたい ②利用しやすいところに停留所を設置してほしい ③運行時間を長くしてもらいたい といった要望があると言う(区役所の簡易調査による)。

グループによるヒアリング(2018/10/15)からは、直近の利用状況(2017年:24万人,2016年:19万人)、区民・区民以外分けての利用状況は把握できていないこと、区民パスポートの利用状況(6~7割)などについて知ることができた。

4.2 風ぐるま見直し検討会による提言内容

また、2014年2月には「風ぐるま見直し検討会」による提言書が提出されている。そこにおいて検討された結果、出された見直し方針及び対応については以下のとおりであるが、「わかりやすさ」「利用のしやすさ」「持続可能」の3つがキーワードとなっていることがわかる。

(1)見直し方針：わかりやすく利用がしやすい「風ぐるま」の運行による、外出ししやすい交通環境の実現(地上レベル



写真1(左)、写真2(右)「風ぐるま」の外観(左)とその内部(右)

The reality of the area circulation bus and possibility of the development in the local community
-A case of KAZAGURUMA in Chiyoda ward-

KAMIYAMA Hajime, NAKAMURA Yukiko,
GAO Huan, SHIMAMURA Toyokazu,
MIKI Hideo, ISHIHARA Kana

でのバリアフリーの達成)

(2)対応：①わかりやすい運行（路線の短縮化,効率化,シンプル化） ②利用のしやすさの向上(車両の大型化による利便性の向上) ③持続可能な運行(経費の削減,効率的な運行)

2017 年度には地域の需要及び実情に応じた地域福祉交通を実現し,より利用者の利便の増進を図るため「風ぐるま」運行協議会が設置されている。

4.3 グループワークでの検討結果^{注3)}

4.1や4.2のような情報もある中,大学院授業におけるグループワークで検討した。グループごとの検討結果については以下のとおりである(図1)。

(1)運営・運行形態の見直し(1・2・3グループ)

・ルートの見直し(逆ルートの運行,一般路線バスと競合しない短絡ルートの設置) ・運行本数を増やす(通勤・通学時間帯含む) ・目的地周辺の企業や施設運営者に一部コスト負担を要請 ・事前予約方式のオンデマンドで運行 ・祝祭日のイベントや祭りに応じたルート設定 ・広告ラッピングによる収入確保(財政負担軽減) ・女性運転手が多いという強みを活かしたサービス(接客)の強化

(2)機能付加(1・2グループ)

・コミュニティ形成のための用途(団体活動やイベントとの連動) ・各施設への小荷物の運搬

(3)利便性の向上(1・2グループ)

・利用者のニーズ(子育て世帯,高齢者世帯等)に応じたルートの検討 ・停留所の再検討

(4)利用促進(1・2・3グループ)

・イベントと連動した景品用意(地域限定ガチャ等) ・公共施設との更なる連携

(5)認知度の向上(1・2・3グループ)

・PRの必要性(地域イベントと連動→地域イベントと併せ

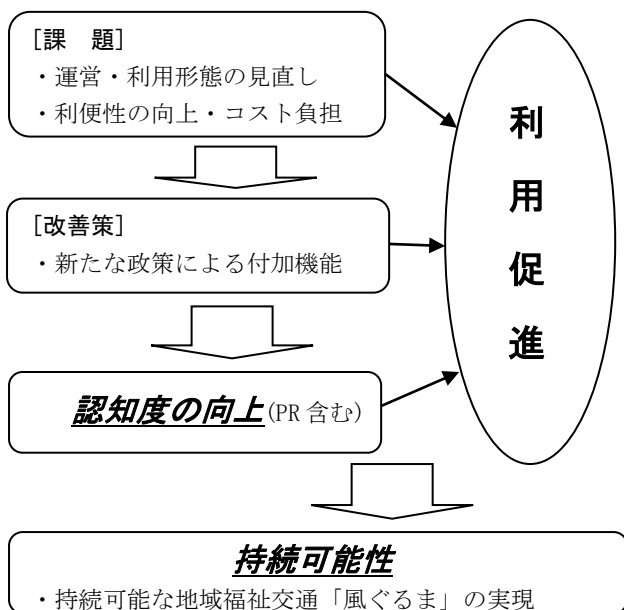


図1 持続可能な地域福祉交通「風ぐるま」の実現までのフロー

での告知) ・地域情報(トイレマップ,授乳室設置場所等)のチラシを社内に紙ベースで設置

(6)広域連携(2グループ)

・隣接区との連携によりルートを増やす ・隣接区との連携により「生きがいイベント」を双方で共有化し,量や質の向上を図る

5. おわりに

「風ぐるま」については既に,区の見直し検討会でも検討されてきたように多くの課題を抱えていることはわかっていたが,本稿では2019年度に「千代田学事業」として検討していくにあたり,その準備段階として「風ぐるま」について大学院の授業(グループワーク)で取り上げ,検討してきたものをまとめた。

限られた資料の中で,学生たちがフィールドワークをしながら検討した結果は,区が得ている情報の中で既にわかっていることも多々あったが,そのことを改めて確認することができ,PRを含んだ「認知度の向上」については特に,大切な視点として今回改めて認識することができた。

「風ぐるま」の利用実態については今後,新たな展開の可能性を探るためにも,千代田区内在住・在勤・通学の方々への意識調査等を行いたいと考えている。そうした要望や独自の調査から得られた実態から,本来の地域福祉交通の目的を尊重しつつ,様々な角度から検討し,更なる活用を目指した具体的な提言へと結びつけていきたい。

今回の調査研究を通し,千代田区に関係する方々(区民,在勤者,通学者,観光客等)に「風ぐるま」の存在を広く知ってもらい,更に新たな利用・活用の仕方を探りながら認知度を向上することにより,高齢者・障害者の外出支援策の理念を生かした千代田区の財産の有効活用につなげていけるものとする。

注

注1) 直近では目黒区において保育園児を公園に送迎する仕組みが導入されるようになってきている(2019年:2台)。

注2) 「千代田学」とは,千代田区が区内にある大学等が区の様々な事象を多様な切り口で調査・研究することを目的に経費の一部を区が補助する制度で,本研究は平成31年千代田学事業による助成金を使用して行われている。

注3) いずれの検討結果も,そもそもの本事業の目的である「高齢者や障がい者が福祉施設を利用すること」を最優先して考えている。

参考・引用文献

1) 風ぐるま見直し検討会：千代田区地域福祉タクシー「風ぐるま」の見直しに関する提言書,2014年2月

2)千代田区 HP：地域福祉交通「風ぐるま」(2017年6月5日改正)
<https://www.city.chiyoda.lg.jp/koho/kenko/koresha/gaishutsu/shin-kazaguruma/h28kaisei.html>

3)地域公共交通の活性化・再生への事例集(国土交通省)
<http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/transport/htm/all.html>

* 法政大学大学院 政策創造研究科 教授 博士(工学)
**法政大学大学院 政策創造研究科 大学院生

* Hosei Graduate School of Regional Policy Design, Prof., Dr. Eng.
** Graduate Student, Hosei Graduate School of Regional Policy Design